

第32回技能グランプリ 審査講評

ペイント仕上げ 競技委員 横山 司



限りです。

今回の競技課題は「持続可能なより良い社会の実現」としました。国連が推進する「SDGs」の十七の目標から、各選手がひとつをテーマとして選んだうえで作品を制作していただきました。

ペイント仕上げの出場選手は三名でしたが、これは全三十種ある競技職種の中でも最下位という不名誉であり、今後の開催が危ぶまれる事態となつてしまいました。

その中であつてこの度、果敢に挑まれましたペイント仕上げの三名各位には、心より敬意を表したいと思います。

さて冒頭にここで特筆すべきことは、まず皆さんの持参した道具・筆・刷毛の類に驚嘆させられたことです。手描きの仕事が増減し、今や全く筆を持たずに営んでいる同業者が少なくないという現状の中、初出場のお三方が持参したそれは、結構と使い込んだ道具類であり、誠に心強い競技の幕開けとなりました。

各選手の講評は、入賞・ゼッケンナンバーの順で記させていただきます。

× ×

金賞 松井勝彦氏



氏は「SDGs」の十七の目標から十三番目の「気候変動に具体的な対策を」を選び、止まらない温暖化に今後の世を憂い、警鐘を促す作品に仕上げました。

全体を通して一貫した暖色系というより、むしろ強烈な赤を主に用い、文字通りの熱さと渴きがいやでも伝わつて参ります。つまり実に解りやすい表現方法を執りました。

この解りやすいということとは判りやすいということであり、訴求力に繋がる、というとても大事な要素なのですが、この点が、他の選手から大きく抜きん出ておりました。

更に氏は几帳面な性格をお持ちなのか、ペイント作品には割と珍しく、直線を多用しての画面構成が、強いメッセージを発する力に成功しておりました。

地球沸騰化時代の到来を気がかっている氏は、そのコピーも端的に表現

し、表記の書体に角ゴシックを選ぶなど、ここでも直線にこだわった徹底ぶりだが、気持ちよく伝わりました。

バランス的には、唯一曲線の地球の表現が少し弱く感じてしまったのは、中央に君臨する温度計の大きさとその色が強すぎたせいですね。その為もあつて全体に少し窮屈な画面に感じられてしまいました。折れ線グラフと温度計をもう少し小さく左に寄せ、サブタイトルの「STOP温暖化」の八角形標識の位置を考慮すると画面の中に余白が生まれ、その解消になったかな、と残念です。今後は余白の使い方を工夫してみてください。

とはいえ、何より直線の描き方、溝引きの技術、正確さはピカイチです。今後は氏を「溝引きの松井」との異名で呼ばせていただくこととします。

杉山利明氏



氏は十七項目ある目標の中から最後の十七番目「パートナーシップで目標を達成しよう」を選びました。それまでの十六の目標を達成するには、一人一人の心の寄り添い、つながり、そしてそれは国と国との慈しむ世界か

ら、更には、宇宙規模での指針へと描きました。氏はそれを人類の希望であり使命だと訴えています。

まず最初に目に飛び込んでくるのは、しっかりと結ばれた手と手です。氏もこの手の表現には重きを置いておまして、何度も描いては描き重ね、を繰り返されておりました。このリアルさに懸命に取り組む姿勢に、感動いたしました。

近年はインターネットの普及に伴い、情報の収集があたかも部品のように入り入るようになり、手描き表現の良さ、味わいを軽んずる傾向に懸念を感じておりましたが、氏のように手仕事の技をメインに表現する勇氣には素晴らしいものがあると思います。

さて想いが強すぎたのでしよう、描き始めるとあちこちが気になりだしたと見えて、集中力が定まらずに色んな箇所を手をつけては、また別の所を手掛ける、という悪循環が見られました。また、氏の人類への思い入れが宇宙規模であまりに大きすぎたのか、表現するモチーフが哲学的に高尚すぎて、作品を見る側に伝わりにくかった点が残念に思いました。

右上の空間は心を表し、中心の球体は太陽を、矢印は十七の目標の方向を、ロゴを照らす同心円は月明かりを、大人の手は先進国を表し、結んだ子供の人差し指は十七の花弁に包まれた地球を指さしているとのこと。もう少し

し解りやすい具体的な表現方法を工夫しての再チャレンジに期待いたします。

勝井寛昭氏



描くことがお好きと見えて、三選手の中でも一番楽しそうに競技に取り組んでいる姿がとても印象的でした。平筆の運びの技巧やウエスを筆替わりに使用したり、表現方法の工夫には感心いたしました。計算されたレイアウトもグラフィカルなデザインー感覚ですね。

氏は十七項目ある目標の中から十六番目の「平和と公正をすべての人に」を選びました。

まず画面いっぱい白い鳩。青空、白い雲、緑の大地、そして虹。明るい絵面から受ける印象は平和そのものです。氏の得意とする描写なのでしよう、何度も描いてきたであろうと思われる手馴れた巧みさが見て取れます。そして額縁から飛び出そうとしている鳩はまさしくトリックアートの妙ですが、その面白さに引かれすぎて、右下に書いた図柄の内容を説明するコピー「勇氣ある決断と行動が、未来の子どもたちを救う」や、氏から事前

に提出された制作意図の「誰もが抱いている正義感にあつても気付かず犯してしまふ過ちの危うさと、途上国の苦しみへの救いを表現した」との説明、果たしてそれらが描かれていくか、その想いをどう表現するか、の難しさに、恐らく氏も苦慮なされたことと推察いたします。完成された構図の作品だけに、この辺りの未消化が実に残念です。虹ももう少し透明感が欲しかった。後半になつてロゴに陰を書き加えたことで、奥に描き加えたはずの虹の距離感がぐつと前面に近づいてきてしまった。鳩をもう少し浮かせ、足をちよつとだけ見せると、更に飛び出す感が出たかも、などなど。氏の再チャレンジを期待して止みません。

× ×

日広連の波田会長には、連日にわたつて会場にお越しくださり、選手への応援を頂きました。

大会の運営にあたつては、九広連の中尾会長はじめ北九州組合の皆様には、前々日から撤去日までお手伝いを頂きました。加えて千葉組合の小室理事長はじめ関係者の方々には、ライトボックス等の必要備品の搬入出をご担当いただくなど、皆様には大変お世話になりました。競技委員一同、心よりお礼申し上げます。

今大会の出場選手十名のうち三名を選出された静岡組合の上村理事長には、ご協力と技能に対する情熱とご努力に、衷心より感謝申し上げます。

粘着シート仕上げ 競技委員 石澤暁夫



に配置しメリハリのある印象を与えるデザインは秀逸です。

欲を言えば、ゴミやダイバーの足ヒレなど、画面からはみ出させる「抜け」があれば、もつと臨場感のある画面になったと思います。

海底の岩肌はシートを三枚重ね立体感があり、美しい表現が見事でした。ただ残念なのは、照明が入ると気にならないという理由で、抜いた黒のシートに上貼りで色シートを貼り込んだ仕事は少しお粗末でした。

手際の良い作業性、無駄のない動きは練習量の多さを感じられました。

銀賞 花牟禮祐一氏



最古の漫画といわれる日本画「鳥獣人物戯画」をモチーフにカエルやウサギを配し、とても楽しそうに学んでいる光景をユーモラスに表現している作品です。

配色はイエローオーカーのベースに白黒、アクセントに赤系のローズを用いて和のイメージに合ったカラーリングのうまさが引き立ちました。

ロゴの構成に少し難があり、「SDGs」をうさぎ先生の白板の中に入れるとか、コピーを上部に配置するとかレイアウトにひと工夫が欲しかったです。

透明板を使用し、最後に裏からサンドブラスト系のシートを全面に貼り込むアイデアは絶妙な効果を出しています。切り貼りの技術力も高く、美しい仕上がりでした。

銀賞 岸田充正氏



ゆうゆうと泳ぐ亀を大きく配し、全体にブルー系統で上手くまとめています。同色系を巧みに使い分け、とても綺麗に見せていながら、シンプルでインパクトがあります。

ただ、環境をとらえた題材に対して、海に亀というよくあるモチーフを採用する発想が新鮮さに欠けます。亀にもオリジナルのアレンジが必要で、コピーとの運動性も不可欠です。もう少しメッセージ力のあるものを期待します。

ロゴはマンボウやチンアナゴなど、可愛らしくユニークなデザインでしたが、仕上りが少し気になりました。コンセプトを熟考する中で良い作品が生まれます。